

ソレイユ眼科・矯正歯科

木・土曜日の
午後はコンサ
クトの処方を
おこなってお
りません。
矯正歯科も診
療時間変更し
ております。

◆歯周病は全身の健康に影響◆

歯周病によって歯を失うと、食事がとりにくくなったり、体全体に大きな影響をおよぼします。さらに近年では、歯周病が全身のさまざまな病気にかかわっていることが分かっています。

◆歯周病と関連のある病気◆

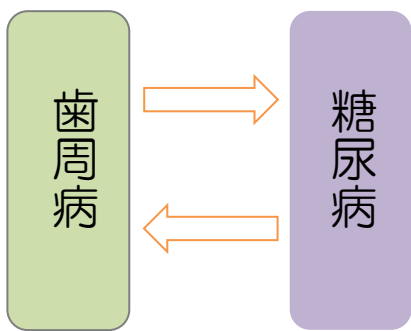
【糖尿病】

糖尿病は、インスリンという膵臓から分泌されるホルモンの働きが弱まったり、十分に分泌されなくなったりすることで、血糖値が高くなる病気です。

糖尿病が進行すると、血液中のブドウ糖が血管や神経障害といった三大合併症に加え、脳梗塞や心筋梗塞などの生命にかかわる病気を招きやすくなります。

糖尿病があると歯周病が悪化し、重度の歯周病があると糖尿病が悪化するようになり、双方に及ぼす関係があるとされています。

歯ぐきの炎症が進むと炎症性物質が体内に侵入し、インスリンの働きが弱まり、血糖コントロールが悪化する



高血糖によって歯ぐきの炎症が治りにくくなり、歯周病が悪化しやすくなる

【狭心症・心筋梗塞】

狭心症は心臓の筋肉（心筋）に血液を送っている冠動脈が狭くなり、心筋に酸素や栄養が十分に供給できなくなることによって起こる病気です。冠動脈がふさがってしまうことによって起こるのが心筋梗塞で、死に至る事もある危険な病気です。

狭心症・心筋梗塞の引き金になるのが「動脈硬化」で、血管の内壁にコレステロールなどが沈着して血管が狭く硬くなり、血液の流れが悪くなった状態をいいます。

この動脈硬化を起こした血管の内壁から、歯周病菌が見つかったという報告があります。

同じ理由で、脳梗塞も歯周病と関連する可能性が高いと考えられています。



【肺炎】

肺炎は日本人の死因の第3位です。その多くは75歳以上の高齢者で、主な原因は「誤嚥性肺炎」と考えられています。

食道に入るべきものが誤って気管に入ってしまうことを誤嚥といい、食べものを飲み込みにくくなった高齢者や寝たきりの人などに多く発生します。

誤嚥性肺炎は歯周病菌などのお口の中の細菌が原因となることが多いとされ、お口が清潔に保たれない人では、リスクが高くなります。

しかし、歯周病の治療やお口のケアが誤嚥性肺炎の予防に有効であるということがわかっています。



【早産・低体重児出産】

妊婦さんに歯周病があると、歯周病菌や炎症性物質が血液中に入り、出産のときに必要な子宮を収縮させるホルモンなどに影響を与えるため、早産のリスクが高くなります。

また、妊婦さんの羊水から歯周病菌が検出されたことが報告されており、妊娠中の歯周病はおなかの赤ちゃんの発育不全を招く可能性があると考えられています。



妊娠中のお口ケア

妊娠期はつわりで歯磨きが十分にできなくなるため、歯周病のリスクが高まる時期です。気分が良い時に歯磨きをするなど、できる範囲でお口のお手入れをしましょう。

安定期に入ったら
歯科健診や治療が
必要な場合は
この時期に
しておきましょう。



◆お口のお手入れは感染症の水際対策◆

インフルエンザなどの感染症予防には、お口の中を清潔にしておくことが大切です。

歯周病菌などの細菌がつくり出すタンパク分解酵素が、ウイルスの粘膜細胞への侵入を助けてしまうからです。

また、お口の中には良い細菌と悪い細菌がありますが、お口のケアをおろそかにすると悪い細菌が増え、それが全身の健康のバランスを崩して免疫力を弱めることにつながると考えられています。

お口の中を清潔に保つことは、感染症予防にも役立ちます。

